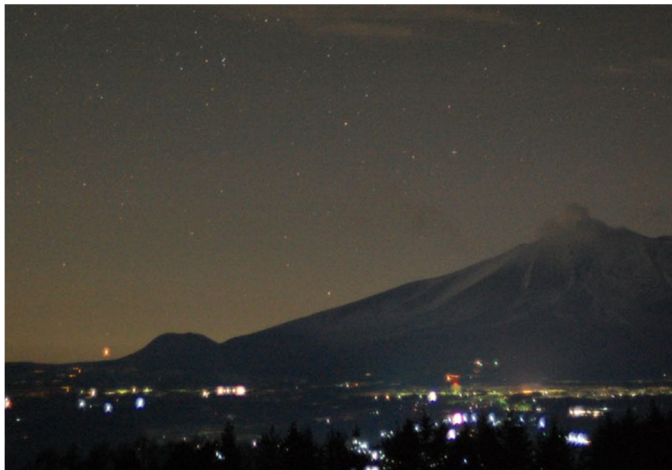


「カノーパス再挑戦 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

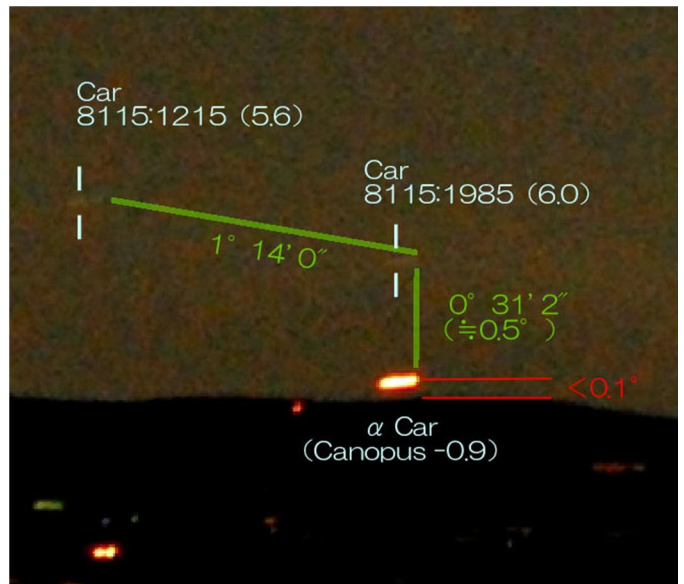
あらかじめ、地形や南中高度を計算しておいた結果、ついに群馬県北西部の嬭恋村でカノーパスの撮影に成功した。



丘陵の森の間から昇ったカノーパスは、ほとんど高度を上げることなく、そのまま左(東)から右(西)に地平線と平行に移動していった。

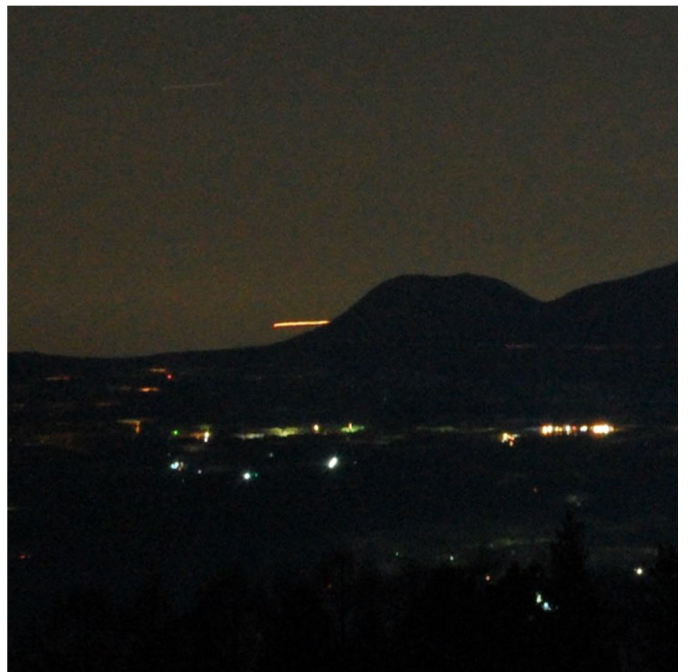


これは超広角レンズで撮影した、当日の南天である。全天一の輝星「シリウス」から、第二の輝星「カノーパス」までが写っている。(2ページ目に拡大写真)



私は、他の恒星との位置関係から、今回見えたカノーパスの地平高度を計算してみた。上図がその結果である。これだけ地平線に近い場所で、6等星まで見えていること自体が驚異的なことだが、それにも増して、カノーパスが非常に明るく写っていることに驚いた。昇って数分後のカノーパスの地平高度は、 0.1° である。その後わずかに高度を上げたが、それでもわずかに $0.2^\circ \sim 0.3^\circ$ が限界だった。

実は地平線付近の天体は、「大気差」によって実際に位置よりも少し「浮き上がって」見える。その差は地平線付近では、約 0.5° である。今回「見えた」のは、大気差による屈折現象のおかげで、もしかすると、実際のカノーパスは地平線下だったかも知れない。



その後カノーパスは、小浅間山の東稜線に隠れてしまった。観測できたのはわずか 20 分間だった。



「シリウスからカノープスまで」

2017年1月上旬

群馬県嬭恋村仙之入地区

ニコン D40 / 14mm / ISO400 / 30s

高橋 P2 赤道儀 簡易極軸

撮影 ; C.Tanaka